

浄土真宗本願寺派



国際伝道 その8

本願寺 台湾開教地（前編）

台湾における開教の歴史は1895（明治28）年に始まり、戦前には60を数える本願寺派の寺院・布教所が存在していた。しかし終戦と同時に全ての日本佛教寺院は閉鎖を余儀なくされる。戦後、寺院に放置されていた日本人の遺骨収集に回っていた陳銘芳氏の手により、再び本派寺院が設立された。現在、台中、台北、及び香港を拠点に伝道活動が行われている。

戦前、中央仏教学院、伝道院などで研鑽を積み、台湾帰国後は本願寺台北別院をはじめ、数ヶ所の寺



光明寺 (台中市)

院で勤務経験のあった陳銘芳氏が、終戦直後の混乱期において、戦前は日本の佛教寺院であった建物に、無惨にも放置された日本人の遺骨をリヤカーで収集することに奔走していた。

戦後、反日の雰囲気に覆われていた台湾において、浄土真宗のみ教えを守り続け、弘宣するという信念のもと、台中市の中心部に光明寺を設立。さらに将来的な伝道拠点の拡充も視野に入れ、1976（昭和51）年に台中市の郊外に土地を購入。ここに光照寺（現台湾開教事務所）が建設されている。

1982（昭和57）年、光明寺の新本堂落成を前に、陳銘芳氏は長年の労が重なり往生される。その志を受け継いで、陳氏の長男である一信氏（現台湾開教地事務所長）がそれまでの職を辞し、龍谷大学大学院へと留学。帰国後は伝道活動に励み、1983（昭和58）年、光明寺新本堂落成法要を厳修。

光照寺（台中市）



「盂蘭盆会納骨法要」（善教寺本堂）
八月 八日（土）朝席：午前十時～
昼席：午後一時半～
講師 渡邊幸司師
（広島市佐伯区五日市町光乗寺）
*送迎マイクロバスを運行します。

「夏の子ども会」（善教寺本堂）
七月末に開催予定
*善教寺仏教婦人会主催
・仏さまの話を聞き、本堂でゲームをします。
・昼食は、仏教婦人会役員さん手作りカレー
を頂きます。

「安居会（夏の法要）」（善教寺本堂）
六月 二十日（土）朝席：午前十時～
朝席：午後一時半～
講師 佐竹隆弘師
(山口県熊毛郡平生町極楽寺)
*送迎マイクロバスを運行します。

「宗祖聖人月忌・門信徒祥月命日法要」（善教寺本堂）
五月 十六日（土）午後一時半～
*毎月十六日に本堂において勤めております。



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp